

同志社大学に 京都ノルウェーセンター開設

2003年5月にノルウェー王国と日本の間で科学技術協力に関わる2国間協定の調印が行われ、その内容をどのような形で具体化していくかが検討されています。その動きの中で、地球温暖化防止に関する京都議定書（いわゆるCOP3）など、環境問題への取り組みでは象徴的な地である京都に「京都ノルウェーセンター」を設立し、日本とノルウェー両国の学術・文化交流と環境・エネルギー問題解決への共同活動の拠点にしようという構想がもちあがり、八田英二大学長やノルウェー駐日大使を始め多くの方々のご理解とご尽力によって、同志社大学「ハリス理化学館」の2階に本センターが開設されました。

このセンターは、両国の団体・個人と協力し、文化、科学技術の交流を通じて日本とノルウェーの相互理解、相互協力をはかることを目的としており、

- ・ノルウェー情報・図書収集
- ・科学技術協力2国間協定に基づく各種の活動支援

- ・「Kyoto International Forum for Environment and Energy」（略称：KIEE、和文名：京都国際環境・エネルギーフォーラム）の活動支援

- ・両国の学生、研究者の交流支援
- ・関西在住ノルウェー人の文化交流活動支援
- ・来日ノルウェー人の関西での活動支

援

などの具体的な活動を進めることになっていきます。

昨年11月14日、ノルウェー駐日大使を始めとする24人のノルウェー側参加者、ならびに本学や京都大学を始めとする関西地区の多数の大学人を迎えて、本センターの開設記念式典が執り行われました。引き続き京都国際環境・エネルギーフォーラム主催のシンポジウムが15日から3日間にわたって寒梅館で開催され、さらに19日、同フォーラム主催のシンポジウムが滋賀県でも開催されましたが、これらのシンポジウムにあたっても本センターが主要な役割を果たしました。

多くの方々がこのような交流活動に興味をもっていたとき、積極的に参画して、自らの視野や活動範囲を広げていただければ幸いです。

京都ノルウェーセンター所長
(工学部環境システム学科教授)
伊藤 靖彦

21世紀のスポーツ文化を考える 『スポーツと京都のまちづくり』 刊行

京都スポーツ研究会は、「大学のまち」京都の連合組織体である財団法人大学コンソーシアム京都に立ち上げられた、八田英二同志社大学長を代表とし、加盟大学の教員を中心メンバーとする団体です。

そこでは、京都における知的資源の活用によるスポーツ文化の価値創造に向けた理論構築、より有益な指針の提示、スポーツを核とする地域貢献のあり方が模索され、シンポジウムの開催

や単位互換授業、スポーツ普及事業などが実施されてきました。

本書は、2004年10月に、3年間にわたる研究会活動の集成として大学コンソーシアム京都から発行されました。

スポーツ文化に関する 8回のシンポジウムと 社会に対する提言を収録

本書は4章から構成されています。

第1章は、川淵三郎元Jリーグチェアマン、山口良治元京都市スポーツ政策監、木村政雄元吉本興業大阪本社代表、玉木正之スポーツライターを始めとする、合計13人の各界における第一人者のスポーツに対する考え方が紹介されています。

第2章は、本学卒業生であるスポー

ツジャーナリストの中西哲生氏と吉本興業タレントの和泉修氏、元全米プロバスケット選手の萩原美智子氏を加えた3氏と研究会メンバーによる、地域とスポーツをキーワードとした議論が内容です。

第3章では、京都産業、立命館、同志社、龍谷の4大学におけるスポーツ振興への取り組みと、企業、メディア、行政からの大学スポーツへの期待が紹介され、最終章が以上の知見に基づいた社会に対する提言となっています。

「勝ち負け」スポーツを超えて

社会貢献・地域交流は、今、大学に希求される時代の要請です。が、スポーツ分野は自チームの勝敗に拘泥するあまり遅れています。

本書が、大学や競技の利害を超え、大学が持つスポーツの力量と技術を地域・社会に向けて発揮するきっかけとなれば幸いです。

京都スポーツ文化研究会副幹事長
大学法学部教授

横山 勝彦



豪州の人気作家 エミリー・ロッダさんが 中学校で「授業」

小中学生に日記のファンタジー小説「リンの谷のローワン」や「デルトラ・クエスト」で知られるオーストラリアの人気作家、エミリー・ロッダさんが※「オーサー・ビジット」の一環で来日された。11月11日には同志社中学校を訪れ、1年A組の40名の生徒や図書情報係の生徒24名と交流が行われた。

ロッダさんのこの日の話のテーマは「創作とは何か」で、日本でも近くテレビアニメ化もされる代表作「デルトラ・クエスト」シリーズを中心に話された。

中学生にとって興味深い話の後、生徒たちの質問のひとつひとつにも丁寧に答えておられた。

さらにロッダさんをびっくりさせたのはローワン、シバなど「ローワン」の主な登場人物に扮した図書情報係の5人の歓迎チーム。突然現れた5人の

歓迎に、大喜びのロッダさんでした。

驚かされた生徒たちの柔軟な発想力

今回のエミリー・ロッダさんの来校に際して、生徒たちの柔軟な発想には驚きました。図書情報係の話合いにおいて、ロッダさんを歓迎する場で何



自作を中心に話をされるエミリー・ロッダさん

か工夫できないだろうかと言った時、ある生徒が発言したのは「登場人物に変装したら？」でした。そこから「歓迎チーム」のドラマが始まりました。誰が何に扮するか…どんな衣装にするのか…ロッダさんの前にはどのような動作で登場するのか…。

当日の図書館は異様な雰囲気でした。司書室で更衣した「歓迎チーム」5人は、1年A組の生徒がロッダさんの話を聞いている時から緊張状態でした。そしていよいよ出番。いろいろな動きをしながら登場したチームを見たロッダさんは「これは…是非写真をつしよ撮らなくちゃ!」と。一人の生徒の発言から、とても素敵な歓迎チームができたのでした。

中学校教諭

反田 任
田邊 利幸

※「オーサー・ビジット」とは「子供たちに人気のある本の作家が教室を訪れ、授業をする」という朝日新聞125周年記念事業